

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100806		
法人名	有限会社 グループホーム・つばき苑		
事業所名	グループホーム・つばき大住		
所在地	秋田県秋田市仁井田湯中町2-35		
自己評価作成日	令和4年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年12月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が「思い」「願い」を表出しやすいよう、職員は声がけや表情・雰囲気は温かく伝わるように配慮しています。また、サービスの質を維持・向上させるために、勉強会や研修に参加し、他施設・他事業所の方と交流・情報交換を行っています。事業所が閉鎖的にならないよう、外部と交流し風通しがよくなるように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内の祭りに招待され出店のやきとりや焼きそばがサービスされるなど、住民が利用者個々を気遣ってくれる関係性を築いている。道路向かいが高校のグラウンドのため、コートからテニスボールが飛んでくると笑顔で投げ返すなどのやり取りを楽しんでいる。野球の声や、吹奏楽の音楽も聞こえる環境である。犬を散歩中の地域住民が利用者に犬を見せに来てくれる等々、地域に溶け込んでいるホームである。週に一度は看護師が訪問しており、訪問看護師専用の電話を活用できる。協力医療機関の医師がとても協力的で、病院とは24時間オンコールの連携がなされている。過去4年間救急車を要請したことがなく、家族やホームの大きな安心感につながっている。「つばき大住だより」を毎月発行しており、全利用者の生活の様子がとてもよく伝わる写真がふんだんに掲載されている。家族に対する情報提供も分かり易いように掲載され、レイアウトや内容、色使いも申し分無い。3食とも手作りにこだわっている。個人経営の魚屋と契約し、骨をとったおいしい魚を配達してもらっており、当日の昼食のサケの切り身は厚く、豪華で、まるで気の利いた家庭料理そのものであった。壁紙の色を区間で変化させたり、要所に縦と横が組み合わされたL字の手すりやふんだんに設置されたり、利便性と安全性を兼ね備えている。共用空間はどこも明るく清潔である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15) ○
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10) ○
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、「思い」に重点を置いています。管理者や職員は、ご利用者・ご家族・職員それぞれの「思い」を大切に考えるよう、心がけています。理念は介護に活かせるよう、会議等で日々職員同士で意見交換をしています。	会社の理念とホーム独自の介護理念が、スタッフルームからよく見える廊下上部に大きく掲げられている。介護理念は、ホームパンフレットにも掲載されており、毎月の職員会議の冒頭でスタッフが持ち回りで音頭をとり唱和されている。分かりやすく覚えやすいよう簡素化されたグループホームらしい、自分、家族、地域、思い、居心地がキーワードの介護理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を介して、町内会長さん・民生児童委員さん・地域包括支援センター職員さん・他グループホームの職員さんと情報の交換をしています。また、感染予防に配慮しながら、町内の美容室や近くのファーストフード店を利用するなど、コロナ禍でも地域へ出る工夫をしています。	町内会長や民生児童委員がいつもホームを気にかけてくれており、大雨の夜に気遣って見回りに来てくれたとのこと。民生児童委員とは日頃からメールでもやり取りしていることが確認できた。道路向かいが高校のグラウンドのため、テニスコートからボールが飛んで来た時は、フェンス内に投げ返す等のやり取りもあるとのこと。野球をする音や、吹奏楽の音楽も聞こえる環境である。町内の祭りに招待され出店のやきとりや焼きそばがサービスされたり、犬を散歩中の地域住民が利用者に犬を見せに来てくれたり、住民に気遣われ地域にとっても馴染んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	管理者は、「秋田県認知症介護指導者」として、定期的に地域の小規模介護事業所の職員へ認知症介護の勉強会を実施しています。勉強会を通してそれぞれの地域へ何か発信が出来たらという考えで実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年11月現在、新型コロナウイルス感染症の予防のため、今年度の会議は対面開催3回、書面開催1回を実施しています。対面会議では、町内の活動を知ることが出来たり、他グループホームの取り組みを知ることができるなど、内部では知ることができない様々な情報を得ています。	ホーム開設当初には町内総会に出席し、グループホームについて住民に説明し挨拶をしていた。その後、町内会長はじめ、地域住民との協力的な関係を築いている。運営推進会議で高齢の夫婦世帯での転倒とその支援についての話題があり、日中であれば、スタッフが駆けつけ協力することをホーム側から提案している。町内会長を通じて、ホームのAEDの活用を地域に開放している。9月の運営推進会議のみ書面開催としたが、他は全て感染症対策を万全にし対面で開催している。会議当日は、利用者はお茶会を楽しむとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	秋田市介護保険課とはメールでのやり取りが中心になり、直接の関わりは介護保険の申請のみです。しかし、秋田市保健所とは、新型コロナに関する相談等を電話で直接やりとりしています。また、一昨年から秋田市南部市民サービスセンターと共同で「災害時避難訓練」を実施しています。	地域包括支援センターとは日々情報交換している関係にある。また市介護保険課とも、介護ロボットや記録ソフトの導入の際に、補助金等について相談しながら進めている。市南部市民センターまでの避難訓練では、実際に市民センターまで避難誘導し、市の災害時の対応の模索に協力している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体的拘束廃止担当者を決め、月に1度「虐待チェック表」にて虐待の防止・早期発見に努めています。担当者は、月に1度の職員会議にて、虐待防止に関する情報提供をしています。また、外部の研修に参加し、身体拘束の廃止や虐待の防止を振り返るようにしています。	開設以来、対象者は皆無である。転倒の危険性を伴う場合のみ、センサーやカメラを活用し、転倒防止に努めている。身体拘束及び虐待をしないケアの実践に向け、積極的に外部研修への参加や所内研修を実施している。	身体拘束の廃止マニュアルの末尾に、関連する様式を綴ることで、迅速に家族等関係者に様式を提供できるよう期待します。
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和4年11月現在では、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学ぶ機会をつくっていません。知識として必要であることは認識しているため、今後研修の機会を見つけて参加をします。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談等で、契約の内容について大まかな説明をし、入居時に詳しく説明をしています。不安がある場合には親身に受けとめ、共に納得できるよう話し合いを行っています。また、料金改定時には、事前に説明をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族へお手紙を送る際に、疑問や相談を「お気軽に」と伝えています。ご利用者の生活に関することは「担当職員」、介護保険や料金等については「管理者」と役割を分担しながらご家族の相談を受けています。ご家族は担当職員に気軽に相談していただき、それを生活やケアに活かしています。	毎月、主に家族向けに「つばき大住だより」を欠かさず発行している。全利用者のホームでの生活の様子がとてもよく伝わる写真がふんだんに掲載されている。毎回、家族に対する情報提供は分かり易いように工夫され記載されている。ちょっとした話題提供にも家族に対する心遣いがうかがえ、レイアウトや内容、色使いも申し分無い。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者は、業務の見直しを現場の職員に提案し、職員らが自主的に考え実践できるよう助言しています。また、職員のスキルアップとモチベーションの向上を期待し、外部への研修を進めています。		
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者が主催する「秋田市南西部圏域認知症勉強会」の開催を見守っています。「秋田市南西部圏域認知症勉強会」では、南西部圏域の小規模事業所が集まり、認知症に関する講習や情報交換を行っています。回数を重ねるにつれ、お互いに顔見知りになり、相談しあえる関係も生まれています。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でホームに入ることを説明し、ホームでの不安等に親身に耳を傾けています。また、入居してしばらくはコミュニケーションを増やし、他者と自然になじめるような環境をつくるよう、努めています。ご本人の表情や言動を観察し、困っている時にはさりげなく傍にいますようにしています。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バイスティックの7原則を基本に、入居前の面談の際や入居当日など、ご家族が大変な思いをしていないか？心配に思っていることがないか？と尋ねるようにしています。親身に話を聞くよう、心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の重度化が進み身体介護が中心になり、グループホームの特徴である「家庭的な暮らし」を主体に考える介護が出来にくくなっています。職員らは「家庭的な暮らし」を中心にした介護ができていないことを心苦しく思ったり悩むこともあります。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各ご利用者に担当職員を置き、担当がご家族と連絡を取り合うことにしています。利用が長くなるにつれ、ご家族から信頼されつつあり、ご家族と担当が情報等を共有することが増えています。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	新型コロナの感染予防のため、外出や外泊をお断りすることが多いです。しかし、久々の家族の再会等では、感染予防の協力をお願いし、コロナワクチンの接種回数やPCR検査の結果を踏まえ、外出を許可しています。また、窓越しの面会を実施しています。	コロナ禍以降はホームの感染予防策として、帰省の際は家族の送迎ではなく職員が自宅まで送迎をしている。体調に配慮し訪問もしてくれるなど利便性の良い町内の美容室があり、利用者にとっても馴染みの店舗となっている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ～Ⅲと幅広いです。ご利用者同士で偏見を持つことがあるため、「好んで認知症になった訳ではないこと」「みんなで助け合いたいこと」などを伝えながら、食事やお茶の時間、余暇活動の時間をさりげなく共に過ごせるよう雰囲気を作っています。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了し在宅に戻る場合は、ご家族や担当の介護支援専門員、地域包括支援センターと情報を共有し、必要に応じて自宅を訪問し、ご本人が安心して在宅の生活を送れるよう、協力しています。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者と積極的に接し、「思い」「願い」を知るように努めています。それを職員はカンファレンス等で情報共有をしています。また、ご本人の「思い」「願い」の把握が困難な時は、ご本人がどう思っているのかを推測したり、察するように努めています。	洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器拭き等々、朝昼晩と張り切って毎日手伝ってくれる利用者がおり、尊重している。歌好きの方が多く、特に人気は昭和の歌謡曲。スタッフが歌うといつものまにか一緒に口ずさんでいる。ホールからは、明るい話声が始終聞こえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用開始時に、「ご本人らしさ」を知るため、ご家族から生活歴等の聞き取りをしています。それだけでは充分でないため、ご本人との日常の会話やご家族の面会時などにもご本人の歩んできた人生の聞き取りを行うようにしています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、ご利用者個人個人の状態の把握とケアの方法について検討と統一をしています。ご家族には毎月のお手紙や電話などで状態をお伝えし、ご家族の思いも考慮した計画を作成しています。	利用者別ノートを設け、個別の課題やケアのあり方をスタッフがそれぞれ記入し回覧しており、管理者からのコメントも確認できた。この情報が個別の介護計画作成の大きな手掛かりとなっており、まさしく「ご利用者を知るノート」として活用している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の生活の様子、体調、ケアの実践を記録しています。個別記録は電子化し、いつでも見やすいようにしています。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合った地域資源の把握は不足しています。ご家族等からご本人の元気な頃の好みや役割等の聞き取りを増やしていくようにします。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始前にかかりつけ医の確認をし、それを継続することが可能であることを説明しています。一方、ホームの協力医療機関の役割も説明し、個々の希望に合わせてかかりつけ医の継続または変更をしています。協力医療機関は、医療連携(訪問看護)を通じて24時間相談ができるような体制をとっています。	週に一度は看護師が訪問し、健康状態の確認や相談に応じてくれる。訪問看護師専用の電話も活用できる。協力医療機関の医師は、「遠慮せずに相談するように」と、とても協力的で親身であるとのこと。病院とは24時間オンコールで、往診にも駆けつけてくれる。過去4年間救急車を要請したことがなく、家族やホームの大きな安心感につながっている。馴染みの薬局には、何でも気軽に相談でき、配達もしてくれる。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携(訪問看護)と24時間連絡ができるようにしています。また、訪問看護でご利用者の健康状態の確認や糖尿病のご利用者の注射、便秘時の浣腸等の処置を依頼しています。看護師からかかりつけ医への報告の流れができていて、体調不良時は必要に応じて受診や入院の体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、「入院時カンファレンス」に参加しています。その際にご本人のホームでの生活状況や入院中の要望を説明しています。また、退院の見込みを確認しながら、ご本人の環境を早く元に戻すため、できるだけ早期の退院を依頼しています。退院前には「退院時カンファレンス」に参加をし、退院後のケアに活かすように努めています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入居時と体調に変化が見られ始めた時期に、管理者から説明をしています。また、体調が大きく変化してきた時期には、かかりつけ医・看護師・ご家族・ホーム職員でその先についての方針を検討しています。ご家族が驚いたり急に不安にならないよう、心身の変化については随時お伝えするようにしています。	数年前に1件、ホームでの看取りを体験している。家族は本人が住み慣れた環境で、慣れ親しんだスタッフと共に、最期まで穏やかに過ごして欲しいとの思いが強い。かかりつけ医・看護師・ご家族・ホームとで十分意思疎通を重ね、できる限りホームでの生活を継続させたいとの思いが伝わった。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、秋田南消防署に急変時の対応や感染予防のガウンテクニックの指導を依頼しています。12月に予定をしています。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は今年度初めに行っています。また、自然災害時の訓練は年度内に行う予定にしています。自然災害時の訓練は、南部市民サービスセンター・災害時協力協定グループホームの協力を得ながら行う予定です。今年度、他グループホームと災害時協定を結びました。	避難訓練に年齢層の若い近隣住民が参加してくれる意向を数年前に確認できたが、その後コロナ禍にあり未実施である。今後、実施できることをホームとしても心待ちにしている。	今後、避難訓練での近隣住民の避難誘導や見守りの協力が得られるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「個人の尊厳」を大切にケアに努めていますが、管理者の職員個々の仕事に対する意識の確認や指導不足・方向性の統一ができず、職員によっては粗末なケアをしてご利用者が不安な思いをすることがあります。職員全員がご利用者を尊重する気持ちを持てるよう、管理者が働きかけを続けます。	担当制を導入しており、担当者が中心となり、本人の思いや願い、生活の希望を把握する試みがなされている。話好きの方が多く、始終楽しく会話する声が聞こえる。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族とも相談をしながら、ご本人の好みに合わせて髪型や衣類、化粧品を勧めています。ご本人の大切にしていた持ち物も使っていただくようにしています。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できそうな方・できる方には、野菜の皮むき・味見・盛り付け・食器洗い・食器拭き等を職員と一緒に行っていただいています。また、食事はご利用者と職員が同じテーブルに着き、同じものを一緒に食べています。食事中は、食事に関することやテレビのニュース等を話題に、和やかに過ごしています。	スタッフが持ち回りで2週間分の献立を作成、3食とも手作りにこだわっている。個人経営の魚屋と契約し、骨をとったおいしい魚を配達してもらっている。当日の昼食のサケの切り身は厚く、豪華で、まるで気の利いた家庭料理そのもの。この魚屋の塩サバはとてもおいしいとのこと。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の好み・咀嚼嚥下状態を把握し、摂取がしやすいように食事の形態を変えています。食思が思わしくない場合はかかりつけ医に相談しながら牛乳や栄養補助飲料等を勧めることもあります。また、1日の水分摂取量の目安を1,500mlとし、申し送り職員全員が周知するようにしています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。毎月の訪問歯科による指導書を確認し、個々に合わせて口腔ケアを行っています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用している場合、ご本人から排泄のサインがある時はトイレへ誘導しています。また、リハビリパンツや尿取りパッドを使用いただきながら個人の排泄パターンを考慮し、トイレへ誘導しています。	食事中、自力でトイレに行けない方は、無言の仕草でスタッフに合図し、トイレまで誘導介助している。オムツを利用している方もできる限りトイレ誘導するよう心掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日飲食物の摂取量を把握し、水分や食物繊維の摂取機会を増やしています。水分摂取は1日1,500mlを目安にしています。飲食物や体操だけでは改善されない場合には、かかりつけ医に排便の状態を報告し、下剤等が処方となることもあります。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	同性介護を基本としています。また、入浴が嫌いにならないよう、脱衣室や浴室ではタオルで胸部や陰部を隠すなどプライバシーの配慮に努めています。お一人おひとり、ゆっくり・のんびりお湯に浸かって頂けるよう、時間をとっています。	スタッフルームの棚に何やら黒い文字が記入された3個の果物、よく見ると「ゆず」に「入浴用」と記入されていた。浴室を見学すると、棚とは別の「ゆず」が浴槽に浮かび、柑橘系の良い匂いがしている。冬至の柚子湯の気配りであることに気づく。普段は入浴剤を利用しているとのこと。自慢の浴室は広く明るくとても介助しやすいとのこと。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライバシーの空間という認識を持ち、むやみに入室しないようにしています。また、入室の際はご本人に声をかけています。昼夜問わず、疲れている様子や眠い様子の時は居室で休んでいただいています。リビングのソファを好む方には、ソファで休んでいただいています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、配薬・服薬介助の際に、薬の用法・容量をダブルチェックして、薬の内容について理解しています。また、処方の変更の際には、かかりつけ医へ変更後の心身の状態を報告しています。かかりつけ薬局には変更の理由を随時報告しています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染予防のため、外へ出る機会が減り、楽しみや気分転換する時間が減りました。職員と世間話をしたり雑談をすることは常にあります。楽しみごとが増えるよう、検討していきます。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、外出の機会が減りました。そのような中でも、ご家族との面会は「窓越し」と決め対応しています。また、自宅への外出については、ご家族の協力を得て、ご本人と接するご家族にはPCR検査を受けて頂き、陰性を確認した上で自宅等への外出を許可しています。	三密を避けながら、季節を感じられる場所を選んだり、個々の好みに応じた外出先を考えている。千秋公園の花見、蓮の花の見学、秋田県動物愛護センターワンニャピアあきた等々、様々な所へ出かけている。近隣のハンバーガーショップでクリームソーダを飲む笑顔の写真も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布等を身に着けていた方には少額を自己管理していただいています。今は、コロナのため外でお金を使う機会がありません。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、定期的に消毒を行ったり、換気をしています。トイレが汚れやすくなっているため、より清潔の保持への配慮をしていきます。また、リビングは殺風景にならないよう、小物を置いたりしています。	長い廊下は端が広く対話コーナーと名付けられている。コタツや大きめのソファ、昭和初期を思わせる囲炉裏に天井から吊り下げて鍋や鉄瓶を引っ掛ける『自在鉤』(じざいかぎ)と鉄瓶、そしてゼンマイ仕掛けの時を刻み鳴る柱時計等が設えられている。今後もレトロな雰囲気のあるものを少しずつ増やしたいとのこと。ホールにはクリスマスツリーが輝いていた。壁紙の色を区間で変化させたり、要所に縦と横が組み合わされたL字の手すりがふんだんに設置されたりし、利便性と安全性を兼ね備えている。共用空間はどこも明るく清潔である。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にはリビング以外に談話コーナーを設けたり、ソファをいくつが設置しています。いつでも誰でも使用できるようにしています。また、リビングはテーブルを増やし、少人数で気兼ねなくテーブルを囲めるようにしています。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居場所である「居室」が今以上に安心して居心地のいい場所になるよう、ご本人の意見やご家族と情報交換をしながらレイアウトを工夫したいと考えています。	大きなクローゼット、介護ベッド、エアコンが備え付けられている。位牌やテレビ、家具を持ち込んでおり、どの居室も個性が感じられる。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すりがついていたり、すぐに掴まりやすいよう、無駄に広いスペースを作らないようにしています。浴槽は3方向から掴まれるようになっていたり、入浴台・浴槽台・手すり等を設置しています。なるべくご自身の足や手を使っていただけるよう、ハード面プラス声かけや部分的な介助を行うようにしています。		